

リモコン防犯灯の照明 —「明るさセンサ」と「熱線センサ」の機能をリモコンで使い分け—



リモコン防犯灯とは…フラッシュ光とアラーム音で不審者を威嚇する「防犯モード」のある照明です。周囲の明るさを検知する明るさセンサ（連続点灯）と、人が動く時に出る温度差を感知する熱線センサ（通常モード）をリモコンで切り替え。
 ※リモコン防犯灯には防犯リモコン2が1コ含まれています。複数個で使用される場合は、別途防犯リモコン2をお求めください。

分類表

門灯 門柱灯

エクステリアライト

門灯 門袖灯

ブラケット
ポーチライト

エントランスライト

ガーデンライト

スポットライト

ダウンライト
セキヨウライト
アップライト

センサの
種類と特長

関連商品

12V&ソーラー
LEDライト

12V LEDライト

ランプ対応表

段調光型の照明

熱線センサの通常モードでは、白熱灯ならではの調光でほんのり点灯とフル点灯を使い分け。

【対応ランプ】白熱灯（詳細はP.931をご覧ください。）

■【防犯モード】

朝～昼間	夕方～夜間	深夜
人が近付いて設定時間以上検知し続けると…フラッシュ光が点灯します	人が近付いて設定時間以上検知し続けると…フラッシュ光が点灯します いなくなると…ほんのり点灯に戻ります	人が近付いて設定時間以上検知し続けると…フラッシュ光が点灯します 設定時間になると…消灯します いなくなると…消灯します

■【通常モード】

朝～昼間	夕方～夜間	深夜
周囲が明るいと…点灯しません	周囲が暗くなると…ほんのり点灯します 人が近付くと…フル点灯します 人がいなくなると…ほんのり点灯に戻ります	周囲が暗くなると…消灯します 人が近付いて設定時間以上検知し続けると…フラッシュ光が点灯します 設定時間になると…消灯します いなくなると…消灯します

■【連続点灯】

朝～昼間	夜間	朝～昼間
周囲が明るいと…点灯しません	周囲が暗くなると…フル点灯します	周囲が明るくなると…消灯します

※周囲が明るいとときに連続点灯ボタンを押してもモードは切り替わりません。
 ※周囲が明るくなると、自動的に切替前のモードに戻ります。

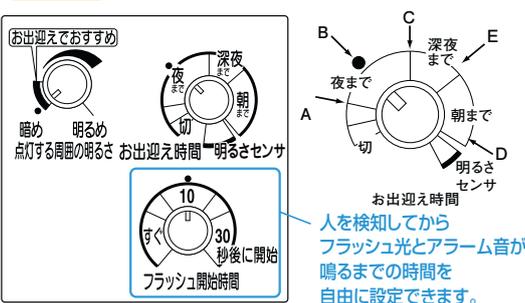
リモコン防犯灯・段調光型照明ラインアップ

リモコン防犯灯 (SSR-4型)
 ● P.911

調整スイッチ

リモコン防犯灯

段調光型



●お出迎え点灯が終わる時間は、地域やその日の天候などにより多少（約1時間程度）の違いがあります。

ツマミの位置	切	A	B	C	D	E	明るさセンサ
お出迎え点灯終了時間	お出迎えなし (ON/OFF型)	20:00頃	22:00頃 (おすすめ)	0:00頃	翌3:00頃	明るくなるまで	明るさセンサモード

ツマミの設定を途中で変更した場合、お出迎え点灯が終わる時間は翌日から正常に動作します。

- 「点灯する周囲の明るさ」・「明るさセンサ」調整ツマミで、熱線センサの動作する周囲の明るさを「暗め（約5lx）～「明るめ（無限大）」の範囲に調整できます。
- 「お出迎え時間」調整ツマミで、お出迎え点灯が終了する時刻を、およそ20時頃～翌朝明るくなるまでの間に調整ができます。（お出迎え点灯が終了する時刻は、地域やその日の天候などにより多少のバラツキが生じます。）「切」に合わせると、お出迎え点灯せず、「ON/OFF型」と同じ点灯になります。（出荷時「切」状態）
- 設定を行った当日、壁スイッチを操作した時、お出迎え点灯が約4時間となります。
- 「フラッシュ開始時間」調整ツマミで、人を検知してからフラッシュが始まるまでの時間を、すぐ、約10秒、約30秒の3段階に切り替えられます。（リモコン防犯灯（段調光型）に対応）
- アラームの音量は、3段階に切り替えられます。
- アラームの時間の調節はできません。

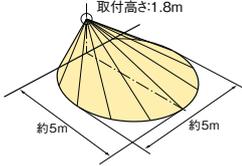


防犯リモコン2

熱線センサ・リモコン防犯灯のセンサ検知範囲

センサの検知範囲(ブラケット)

■センサ方向 前方へ20°可動させた場合



■可動角度0°の場合



■手前(器具側)へ20°可動させた場合



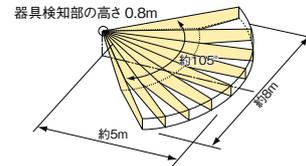
■横方向へ20°可動させた場合



注)器具は、高さ1.8m(標準)~3mの間で取り付けください。(検知範囲は変わりません。) 検知範囲を狭くする場合は、エアアカットフード(現場手配)をご使用ください。

センサの検知範囲(エントランスライト)

■センサ方向 正面の場合

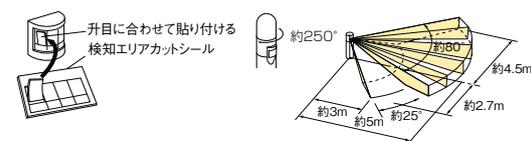


■センサ下方向20° 正面の場合



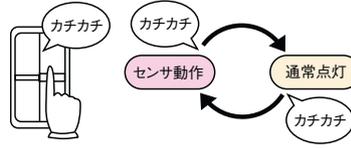
検知範囲は、付属のエアアカットシールにより狭くできます。

■左上にエアアカットシール(付属品)を貼った場合



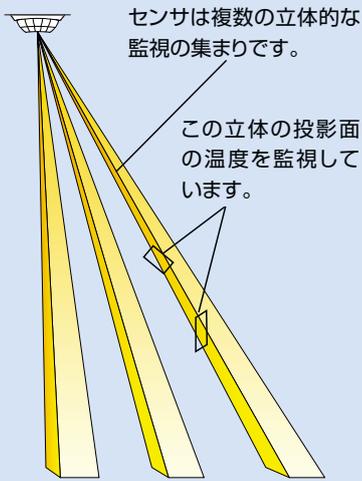
壁スイッチで「連続点灯」(熱線センサの段調光型・点灯省エネ型のみ)

壁スイッチを「カチカチ」と操作すると、センサ動作を解除。連続点灯できます。もう一度「カチカチ」とすれば、再びセンサ動作に戻ります。また、連続点灯時は器具側レンズ部のLEDが点灯します。
※設置場所に応じて、市販の照明用ON/OFFスイッチ(室内用または屋外用)をお求めください。



通常点灯時、器具側レンズ部のLEDが点灯、センサによる点灯と区別できます。

熱線センサの動作



センサは複数の立体的な監視の集まりです。

この立体的な投影面の温度を監視しています。

「検知」は、監視範囲の温度が3度(※1)変化し、さらにその変化が複数の監視範囲間を、ある速さ(※2)で移動した時に成立します

※1)上昇・下降どちらも ※2)秒速0.5m~2m(人が歩く程度の速さ)

注)管理環境下でセンサの性能試験を実施する場合の基準ですので、実環境においては異なる場合があります。カタログなどで図示された検知エリアは目安としてお考えください。

【エリアに入っても検知しにくいケース】

- 温度変化を検出しにくい場合
 - 例)冬、顔や手など本来体温を検出しやすい部分が厚い衣服で覆われる
 - 例)夏、気温や監視面の温度が体温に近い環境になる
 - 例)エリアに入った後、動かない→一度は検知するが、変化後の状態を定常と認識するとその後の変化がない
- 温度変化の移動を検出しにくい場合
 - 例)照明器具(センサ)に向かってまっすぐ近付く→複数の監視範囲間を移動しない、または監視範囲のすきまを通過してしまう

【誤作動する可能性があるケース】

- 人以外の熱源がエリアに入った場合 例)車・犬・猫など
- その他の外的要因で、エリアの温度変化が発生する場合
 - 例)エアコン室外機吹き出し口や換気扇からの風が、監視面の温度を変化させる
 - 例)風などでよく揺れる植物の近く→植物の温度と背景面の温度差で動作する

器具仕様の確認について

蛍光灯器具は、電源周波数(50Hzまたは60Hz)に合った器具を使用してください。

●蛍光灯器具には、電源周波数の50Hz用と60Hz用の区別があります。間違えて使用すると、ランプ寿命が短くなったり安定器が過熱して発火する可能性があります(※インバータの場合は、50Hz/60Hz共通です。)

